



東濃厚生病院

Hospital public relations magazine

VOL.101

発行者/JA岐阜厚生連 東濃厚生病院
所在地 〒509-6101 岐阜県瑞浪市土岐町76番地 1
TEL/0572-68-4111
FAX/0572-68-8934
URL/http://www.tohno.gfkosei.or.jp

すこやか

Content

● 医療を伝える

放射線科医とは？

放射線科部長 可児 裕介

● 知って得する

風邪薬の豆知識

インフルエンザ予防接種のご案内

● ニュース&トピックス

地域の健康づくりへの取り組みを行っています

東海四県農村医学会を開催しました

部署紹介／入院検査サポートセンター

すこやか 外来診療担当表

平成29年10月1日現在

診療科目	月	火	水	木	金	
内科	初診 第1・3・5週	柴田尚宏 (呼吸器)	宮本陽一 (消化器)	柏原輝子 (腎臓)	加藤宏雄 (循環器)	神田裕大 (消化器)
	第2・4週	荒田真子 (消化器)				
	3診	小川貴史 (循環器)	吉田正樹 (消化器)	浅野慎介 (腎臓)	長屋寿彦 (消化器)	澤崎貴子 (腎臓)
	4診	野坂博行 (呼吸器)		代務医 (内分泌)	野坂博行 (呼吸器)	安藤 操 (内分泌)
	5診	柏原輝子 (腎臓)	浅野慎介 (腎臓)	澤崎貴子 (腎臓)	澤崎貴子 (腎臓)	浅野慎介 (腎臓)
	6診		朱宮孝紀 (循環器)		小川貴史 (循環器)	代務医 (循環器)
	7診	朱宮孝紀 (循環器)	小川貴史 (循環器)	塚本英人 (循環器)	塚本英人 (循環器)	加藤宏雄 (循環器)
	8診	代務医 (呼吸器)	代務医 (呼吸器)		柴田尚宏 (呼吸器)	代務医 (呼吸器)
	9診	吉田正樹 (消化器)	長屋寿彦 (消化器)	吉田正樹 (消化器)	荒田真子 (消化器)	宮本陽一 (消化器)
	10診	長屋寿彦 (消化器)	宮本陽一 (2・4)	神田裕大 (消化器)	神田裕大 (1・3・5)	荒田真子 (消化器)
神経内科	加藤秀司	加藤秀司	加藤秀司	加藤秀司	加藤秀司	
小児科	代務医	代務医	佐々木明 (1・3・5)	高田勲矢	佐々木明	
外科	1診	今澤正彦	安藤修久	大谷 聡	代務医	安藤修久
	2診	山村和生	代務医	今澤正彦	山村和生	大谷 聡
整形外科	1診	代務医(手の外科) 9:30~11:30	佐藤 央	柏原 学	大間知孝顕	柏原 学
	2診	柏原 学	大間知孝顕	大間知孝顕	佐藤 央	平石 孝
	3診	平石 孝		佐藤 央		
脳神経外科			代務医			
皮膚科	1診	稲垣克彦	稲垣克彦	稲垣克彦	代務医	代務医
	2診				稲垣克彦	
泌尿器科	小出卓也	小出卓也	小出卓也	小出卓也	代務医	
産婦人科	石渡寿勝	石渡寿勝	石渡寿勝	石渡寿勝	石渡寿勝	
眼科	1診	代務医 9:00~16:00	代務医 9:00~13:00		金田正博 9:00~16:00	代務医 9:00~16:00
	2診				代務医 9:00~16:00	
耳鼻咽喉科	1診	水谷俊太郎	水谷俊太郎	水谷俊太郎	水谷俊太郎	水谷俊太郎
	2診	代務医	代務医	代務医 (第4週)	代務医	
放射線科	可児裕介	可児裕介	可児裕介	可児裕介	可児裕介	
人間ドック 診察	第1・3・5	山瀬裕彦	野坂博行	山瀬裕彦	安藤 操	山瀬裕彦
	第2・4		塚本英人		吉田正樹	

専門・特殊外来

内科

血液内科外来
第2週木曜日/午後

CAPD外来
毎週月曜日/午後

フットケア外来
第3週・第4週木曜日/
9:00~16:00(予約制)

睡眠時無呼吸外来
毎週木曜日/
13:00~15:00(予約制)

外科

ストーマ外来
第1木・第3金・第4水/
9:00~12:00(予約制)

ヘルニア外来
毎週金曜日/
8:30~11:30

肛門外来
毎週火・金/
8:30~11:30

乳腺外来
毎週木曜日/
13:30~17:00
受付時間/
13:00~15:30

整形外科

スポーツ外来
毎週木曜日/16:00~

脳神経外科

特殊外来
第4木曜日/
13:00~16:00(予約制)
梶田医師)

皮膚科

午後診察
毎週火曜日・木曜日/
14:30~16:30

耳鼻咽喉科

補聴器外来
毎週月・火曜日、
第2・4水曜日/
15:00~(予約制)

JA岐阜厚生連
東濃厚生病院
〒509-6101 瑞浪市土岐町76-1
TEL 0572-68-4111
FAX 0572-68-8934

受付時間 8:30~11:30
休 診 土曜・日曜・祝日
面会時間 13:00~20:00

■健康管理センター(人間ドック)
TEL:0572-68-4426 FAX:0572-68-9458
■訪問看護ステーション あゆみ
TEL:0572-68-8625 FAX:0572-68-8635

看護職員募集

当院では、看護職員を募集しています。現場から長期に離れた方でも大歓迎です。ご自身の能力を患者さんのために役立ててみませんか?お待ちしております。

資格 看護師・看護補助員

連絡先 企画総務課および看護部長室
TEL 0572-68-4111

医療を伝える

THE TOPIC WHICH IS AN NUMBER NOW

今回のテーマ

「放射線科医とは？」

放射線科部長 可児 裕介

はじめに

今年4月より当院に赴任した放射線科医の可児と申します。放射線科医と言っても皆様にあまりなじみが無く、どのような仕事をしているか分からない方が多いかもしれません。今回この場を借りて放射線科医について紹介いたします。

放射線科医とは？

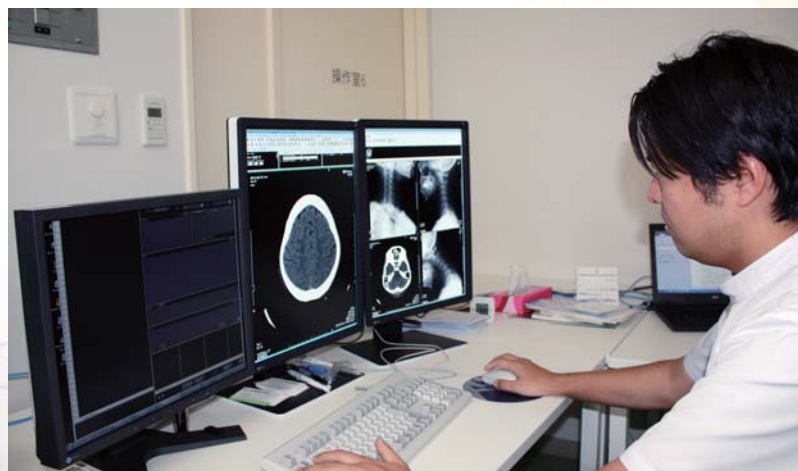
放射線科医は大きく放射線診断医と放射線治療医の2つに分けられます。ちなみに私は放射線診断医になります。ともに所定の施設で研修し、学会(今後は日本専門医機構)によって認定された専門医を指すことが多いです。

ではその放射線診断医が何をしているかと言いますと、主に画像診断報告書を作成しています。病院では診療放射線技師によってCTやMRIなどの検査が行われます。これら検査によって出来た画像に対し、主治医の依頼に応じて画像診断報告書を作成します。他院で施行された検査に対しても改めて当院で報告書を作成することもあります。

近年CTやMRIの急速な進歩により、画像診断も複雑に難解になっていきます。特に検査で確認すべき画像枚数はここ数十年で数倍以上に膨れ上がっており、正確に評価・診断するには手間や時間を要します。そこで主治医の負担や見落としを減らすために画像診断を専門とする放射線診断医の必要性が

高まってきました。昔はフィルムで診断

していたものが、今はパソコンのモニターでの診断に置き換わりました。現在フィル



ムで診断しようとするときにフィルムの枚数が数十枚になり、壁一面にフィルムを並べることになりかねません。

例えば、強い背部痛の訴えがある方にCTを撮影したとします。背部痛を来す疾患として急性膵炎、尿管結石や腎盂腎炎、大動脈解離、腰椎椎間板障害や圧迫骨折および炎症、良性・悪性腫瘍など多岐に渡ります。その時担当した主治医の先生によっては専門外であったりして診断に難渋することもあるかもしれません。その時に放射線科診断医は主治医の先生の苦手な領域の画像診断をサポートする役割もあります。また、検査でたまたま無症状の初期の肺癌を疑う影が肺にあった時など、予想もしない病変が潜んでいた時にその病変を拾い上げるのも放射線診断医に求めら

核医学診療も行います

画像診断以外には画像下治療(IVR)、核医学診療も行います。画像下治療(IVR)とはX線(レントゲン)やCT、超音波などの画像診断装置で体の中を透かして見ながら、細い医療器具(カテーテルや針)を入れて、標的となる病気の治療を行っていきます。心臓の治療は循環器の先生が、頭の血管は脳外科の先生が行うことが多いです。私の得意とする領域はカテーテルを使った止血術(交通事故や転落などによる腹部臓器損傷の出血や産科出血、喀血や消化管出血、手術後の出血など)や特定の腫瘍に対する塞栓術です。

当院には核医学を行う機器・設備がありません。しかし、核医学診療の適応の有無など主治医の先生の相談を請け負っています。必要な時には核医学診療設備を有する施設への紹介を勧めます。

一方放射線治療医は放射線治療の機械を使用して、治療を行う医師を指します。放射線治療は現在のがん治療に

おいて、外科手術、化学療法と並び3本柱となっています。当院には放射線治療の機械が無いため、放射線治療が必要な時は他院へ紹介しており、治療医は不在となっています。

最後に

放射線科医、特に放射線診断医は患者さんの診察をする機会が少ないかもしれません。しかし、画像診断の点で当院の診療の質および安全の向上を支える縁の下の仕事をしています。当院でCT・MRIなどの検査をされた時には私が見えないところで関わっています。当院を受診され、CT・MRIなどの検査がつつがなく行われるよう、日々精進しています。

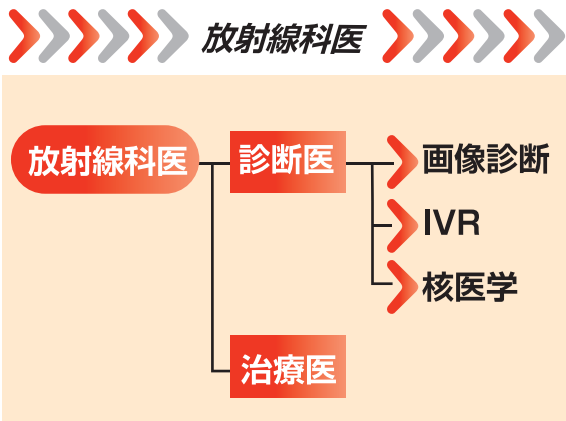
行動目標

1. 私たちは日々研鑽に励み、患者さんの立場に合った質の高い医療の提供に努めます。
2. 全職員が患者さんの窓口となり、真心と笑顔で患者さんに接します。
3. 患者さんの言葉を最後まで聴き、患者さんが理解できるよう分かりやすい言葉で説明します。

病院の理念

歩みいる者にやすらぎを、
去り行く人に幸せを

私たちは地域の皆様に愛され、親しまれ、そして信頼される病院を目指します。



れている役割です。当院で行われたCT・MRI検査に対し、主治医の依頼に応じて、画像検査の隅から隅まで確認して報告しております。またCT・MRIも機器の進歩により、検査も複雑になってきました。特定の病気が見たいといっても検査方法によっては見やすかったり、見にくかったりするため、検査前に適切な検査が行われるよう調整するのも放射線診断医の役割です。具体的にはCTの被ばくの管理や造影剤使用時の撮像タイミングの設定、MRIでどのような検査を行うかを事前に指示したりします。

『抗生物質(抗菌薬)』

- 細菌に効果がある薬です。ウイルスには効きません。
- 風邪やインフルエンザによる症状が悪化すると、体の抵抗力が落ち、肺炎などの重症の細菌感染症にかかってしまうことがあるので、そのような重症化を防止するために服用する必要があると言われています。
- 処方された日数は続けて正しく服用しないと、抗生物質の効かない細菌が現れやすくなります。
- 腸内の善玉菌にも作用してしまい、下痢しやすくなる場合がありますが、細菌に効く薬である以上起こり得ることです。あまりにひどい下痢でなければ、服用は続けた方がよいでしょう。
- 牛乳やジュースなどで飲むと、効き目や味が変わる薬があります。

『抗インフルエンザ薬』

- インフルエンザウイルスを退治する効果があります(予防効果もあります)が、できるだけ早く服用を開始しないと、効果が出ないことがあります。
- 飲み薬や吸入薬、注射薬があり、症状や年齢などにより最適な薬が選択されます。
- 処方された日数は続けて正しく服用しないと、効果が出ない可能性があります。
- 特に子供の場合、服用後の行動に注意が必要です。

インフルエンザ予防接種(一般・高齢者)のご案内

当院の接種日は ○ になります。

11 2017						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12 2017						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
	31					

- 受付時間** 午後1時30分～午後3時30分頃まで(概ね1日100名程度)
- 受付場所** 初診受付
- 接種時間** 午後2時～午後4時頃まで
- その他** 小児(中学校3年生までの方)については、小児科外来で予約制となります。

★ 今回のテーマ

「風邪薬の豆知識」

風邪薬にもいろいろありますね。
今回ご紹介する3つのお薬、みなさん、違いはわかりますか？

段々と秋らしくなり、寒さが増してくると、風邪も流行り始めます。風邪対策としては、十分な休養・睡眠・栄養が最も大切です。
風邪やインフルエンザはウイルス感染症です。インフルエンザの場合、高熱、体のだるさ、頭痛などの全身症状が強く現れます。特に子供の場合、けいれんや脳炎などに発展する可能性があり、早めの受診が必要です。
風邪やインフルエンザと診断されると、多くの場合、『風邪薬』、『抗インフルエンザ薬』、『抗生物質(抗菌薬)』などが処方されます。これらの薬について知っておいた方がよい豆知識を簡単に紹介します。



『風邪薬』

- 発熱、鼻汁、咳、痰などの不快な症状を抑える薬が配合された「総合感冒薬」のこと。症状ごとに効く薬(解熱剤、咳止めなどと呼ばれる薬)もあります。
- ウイルスを退治する効果はありません。
- 不快な症状とは、実はウイルスを排除するための生体反応です。例えば発熱によってウイルスは増えにくくなります。しかし、高熱が続けば体に多くの負担をかけ、危険な場合があります。そのため、ある程度症状を抑える必要があります。
- 本人の体調や周りへの影響なども考慮した医師の処方薬は服用しましょう。市販の薬なら薬剤師に相談しましょう。

みなさまに身近な健康にまつわる選りすぐりの情報をお伝えします！



午前中は岐阜市民病院地域連携部長・血液腫瘍センター長 高橋健先生より「岐阜二次医療圏の医療介護連携ネットワーク」について基調講演が行われ、続いて、名



6月11日(日)、岐阜市において第55回東海四県農村医学会が開催されました。今学会は「連携〜グローバルな連携からエリア・コミュニティまで」をテーマとし、当院の塚本英人病院長が学会長を務めました。



東海四県農村医学会を開催しました

古屋大学大学院医学系研究科消化器内科学教授後藤秀実先生より「アジアでの医療支援と医療連携の重要性」について特別講演が行われました。

また、午後からは、各県より地域医療における連携の現状や課題、取組み等についての発表および総合討論が行われました。当院からは43名の職員が、学会の成功に向けて、それぞれの業務に責任を持ち、運営に携わりました。関係者約500人が参加し、グローバルからエリア・コミュニティまで幅広い連携の構築について考えることができる学会となり、盛会に閉幕しました。



東濃厚生病院の気になるニュースをお届けします

ニュース&トピックス



7月21日(金)、J Aひがしみのにおいて、当院の栄養士が講師となって「減塩料理教室」が開催されました。減塩のコツや工夫についてを説明しながら、地域の方々20名と実際に料理を作りました。参加者の方々から「この時期に家庭で採れる野菜を使って、普段とは違う味付けで作ることができた」「料理が簡単に来たため、自宅でも挑戦したい」「血圧が高いので、減塩について再認識できた」などの嬉しいご意見をいただきました。



地域の健康づくりへの取り組みを行っています



また、8月6日(日)にはJ Aひがしみの葬祭センターにおいて、当院のリハビリテーション科の職員が講師となって「健康体操」が開催されました。

地域の方々20名と「足腰を鍛える」をテーマに、膝腰の代表的な病気の説明や痛みに効果的な体操を実演しました。参加者の方々と一緒に自宅で出来る筋力トレーニングやストレッチを行い、膝腰の痛みについての多くの質問や「自宅でも毎日続けてみようと思った」「参考に



なったなどの感想もあり、有意義な「体操教室」となりました。今後も東濃地域の方々の健康づくり地域活性化のために貢献していきたいと思

東濃厚生病院の 部署紹介

「入院・検査 サポートセンター」

患者さんとご家族の皆さまが安心して検査や手術を受け、快適な入院生活を送っていただくために昨年10月より「入院・検査サポートセンター」を開設し1年が経過しました。当初は説明内容も一部の検査に限定していましたが、徐々に内容も充実してきました。



説明する内容は、検査を受ける際の食事に関することや手術前後の注意点、また、入院する際に準備するものや入院後のスケジュールなど、わかり易く説明することにより、患者さんやご家族の皆さまの不安を軽減し、安心できるようにとつとめています。説明内容により時間に違いはありますが、外来待合室とは違った落ち着いた環境のなかで、10分から20分程度、患者さんやご家族の皆さまからのご質問を受け、ご理解いただけるよう対応しています。なかには「ゆっくり話が聞けてよかった」などのお言葉もい



Support サポート

ただ、嬉しく思っています。これからも安心して検査や手術が受けられ、快適な入院生活が送れるようスタッフ一同、サポートさせていただきます。